

2022年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2022年3月22日現在）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
土谷敏治	B	地方都市における公共交通の課題と展望	文献の講読を通じて、地方都市の交通・人口・産業・まちづくり等に関する調査・研究計画の立て方、調査方法、結果の分析方法、論文の書き方などを学習する。その成果を踏まえて、実際に調査計画を立案し、資料の収集、現地調査、調査結果の分析、調査報告作成の実習を行う。現地調査は10月中旬、群馬県前橋市・高崎市と周辺地域を予定（3泊4日程度）している。	火・5
瀬戸寿一	C	情報化とまちづくり	前期は、都市社会地理学や都市の情報化に関する文献輪読を行う。前期後半から夏休みは、後期に実施予定の地域調査に関わる資料収集による事前準備・分析をグループで徹底して行う。9月または10月に3泊4日で会津若松市で地域調査を実施し、聞き取り調査・まちの情報化（デジタルデータの活用）などを行いまとめる。現地調査後は得られたデータや統計資料などから多角的に地図化や分析を行い、12月までに報告書を作成し発表会を行う。	水・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
小田匡保	A	白杵市の人文地理（地場産業・商業・観光など）	大分県白杵市	10月（3泊4日）	白杵市に関する統計の分析、地図の読み取り、文献の講読の後、グループで調査テーマを決めて、現地調査（聞き取り・観察など）を行なう。現地調査後は報告書を作成する。	水・5
西山弘泰	B	地方都市におけるコンパクトなまちづくり	青森県青森市	8月下旬（3泊4日）	人口減少時代における持続的な都市のあり方として、コンパクトシティが提唱されて久しい。この科目では、人口減少が進む地方都市の持続可能なまちづくりの事例として「コンパクトシティ」をテーマに据え、その理想と現実について考える。序盤は、地方都市の現状やコンパクトシティとは何かについて、文献などを通して学ぶ。中盤は、青森市のコンパクトシティ政策について、3泊4日の現地調査を通して把握する。終盤は、現地調査によって得られたデータや各種資料をもとに、報告書作成を進める。現地調査にあたっては、地元大学生との交流（意見交換や合同調査）の可能性もある。	水・3
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県と新潟県の境界地域	6月を予定	主なテーマは、自然を活かした暮らしの特徴と変容、農産物のブランド化、都市・農村交流など。事前準備や文献講読から報告書作成まで取り組む。村落地理学を履修した人は、今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
西山弘泰	A	地域資源を活かしたまちづくり	栃木県宇都宮市	週末に複数回（特に11～12月）	栃木県宇都宮市では、古来より地場石材の大谷石が産出利用されてきた。現在でも、大谷石が採掘されるとともに、市内各所には、大谷石の蔵や塀、擁壁などが広く分布している。この科目では、地域独自の資源がまちづくりに如何に利用・保全されているかを、行政や市民、事業者などの取り組みから学ぶ。具体的には、個人や団体、事業者へのヒアリング調査や大谷石建築物の分布調査を地元市民団体と連携しながら行う。宿泊を含め、数回現地へ赴いてもらうので留意してほしい。なお、東武鉄道を利用すれば、宇都宮～東京都内は、2,000円程度で往復できる。	後期 火・4
平井幸弘	B	ジオパークにおける自然地理学の視点	鹿児島県桜島地域	11月初・中旬に2泊3日	鹿児島県の桜島地域において、日本ジオパーク認定地である桜島・錦江湾を中心に、その特徴的な火山地形や過去の災害、現在の防災、さらには地域資源を活かしたツーリズムなどに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、地形調査、植生調査、景観調査などを実施する。	後期 火・4
小野映介	C	久米島の人と自然	沖縄県島尻郡久米島	6月13日～6月15日（2泊3日）	久米島は沖縄本島の西約100kmに位置する火山島で、サンゴ礁の発達する美しい島である。島の自然環境と人間活動との関係について、フィールドワークを通じて学ぶ。地形・地質、動植物、気候以外にも、離島の農業・漁業、観光業、食・文化、城（グスク）などの歴史に興味を持つ学生に受講して欲しい。	前期 金・4
田中 靖	D	身近な自然とGIS	関東地域数カ所	週末（土曜日）に複数回	自然地理学の現地調査ではどのような視点で景観を観察しているのかを身近な事例を通して学ぶ。事前学習（文献調査、GISによる地図作成）と週末（主に土曜日）日帰り巡検を複数回実施。巡検地は受講者との話し合いによって決定する。	前期 土・2

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等	曜・時限
小野映介	A	人と自然の地理学	自然災害と防災・減災、様々な環境問題、SDGsに関する基本文献を輪読するとともに、それらに関して前期中に八丈島におけるフィールドワークを行う（7月4日～7月6日）。後期は、新潟平野（越後平野）でフィールドワークを行う。以上を通じて、卒業論文の執筆のための地理学における論文の構造を学び、まとめ方を指導する。	水・4

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の自然と環境	鹿児島県屋久島町	11月初旬・中旬を予定	屋久島の気候についてテーマを決め、気候データの解析を中心に進めます。後期に、屋久島の自然と環境について調べたうえで、現地調査を行います。最後に、全部の調査結果を報告書としてまとめます。	水・4
鈴木秀和	B	浅間山北麓の自然環境・防災・地域振興	群馬県長野原町・嬬恋村周辺	6月下旬～7月上旬に3泊4日	浅間山北麓の自然環境（地形・植生・水文など）を中心に、それを活かしたツーリズムや自然災害への対応について調査を行う。班別に調査テーマ決め、地形・植生調査は地元の専門家に協力を仰ぎながら実施する。また、観光や防災に関する調査では、観光客や地元住民へのアンケート調査、関係機関へ外向き聞き取り調査を行う。	水・2
鈴木重雄	C	島根県大田市の自然環境と人の関わり	島根県大田市	10月上旬～中旬の3泊4日	三瓶山、石見銀山を含む島根県大田市で、たたら製鉄・鉄穴流し、銀山開発、放牧による植生・地形の変化や、その前提となる火山や河川による地形形成・植生の垂直分布について調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前には文献の講読を行い、調査計画を立案し、調査後は調査結果を報告書にまとめる。	火・4
田中 靖	D	喜界島の自然地理	鹿児島県・喜界島	10月中旬に3泊4日の予定	喜界島の地形形成および人と自然の関わり合いについて、自然地理学的な視点から調査を行う。調査実習は班別にテーマを決めて実施。取り扱うテーマは、①段丘地形、②サンゴ礁、③地殻変動、④水/水利用、⑤集落、⑥環境保全の取り組みなど。調査手法としてドローン測量、GIS分析、Pythonプログラミング等に取り組む。	月・3
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	京都府宮津市 天橋立、阿蘇海地域	10月初・中旬に3泊4日	日本三景の一つである京都府の天橋立・阿蘇海を対象として、特徴的な砂州の地形・地質、海岸侵食や水質汚染、植生変化、また景観の保全など、主に自然地理学的な視点からの現地調査、また、しかるべき機関、団体、個人を対象に聞き取り調査や質問票調査を実施する。	水・4

* 演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。

* 新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者、発熱・咳等の症状のある学生は、4/4の振り分けには無理に出席せず、事前に地理学科に申し出ること。

メール:chirioffice[at]komazawa-u.ac.jp 電話:03-3418-9259(地理学科事務室)